

栃木県結核・感染症発生動向調査情報

(サーベイランス)

令和2(2020)年1月(週報第1週～第5週(12/30～2/2))集計の感染症発生動向調査情報に関する解析結果は次のとおりです。

1 感染症解析情報 {1月は5週間、12月は4週間、前年同期は5週間での比較となります。}

(1)概況

ア. 1月の報告数は次のとおりです。全数(1～5類)把握疾病は、64件(12月は66件)でした。定点把握疾病のうち週報疾病(インフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点、基幹定点の週報)は6,497件(定点あたり19.91件/週)であり、12月の7,069件(定点あたり27.79件/週)と比較し、週あたり0.72倍とかなり低い水準で推移しています。

イ. 栃木県において報告が多かった主な疾病は次のとおりです。(定点把握週報疾病)

疾病名	報告数	前月との比較(週あたり比)	前年同期との比較(週あたり比)
インフルエンザ	5,007件 (週あたり平均1001.40件)	↓ (0.79倍) 前月は5,042件 (週あたり平均1260.50件)	↓ (0.32倍) *前年同月15,783件 (週あたり平均3156.60件)
感染性胃腸炎	845件 (週あたり平均169.00件)	↓ (0.61倍) 前月は1,115件 (週あたり平均278.75件)	↓ (0.82倍) *前年同月1,036件 (週あたり平均207.20件)
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	318件 (週あたり平均63.60件)	↓ (0.68倍) 前月は375件 (週あたり平均93.75件)	↓ (0.89倍) *前年同月356件 (週あたり平均71.20件)

- ① インフルエンザは、前月に比べ報告数が0.79倍とやや低い水準で推移しています。前年同期に比べると、報告数で0.32倍と大幅に低い水準で推移しています。全国的には、過去5年間の同時期と比較して、ほぼ同様の水準で推移しています。
- ② 感染性胃腸炎は、前月に比べ報告数が0.61倍とかなり低い水準で推移しています。前年同期に比べると、報告数で0.82倍とやや低い水準で推移しています。全国的には、過去5年間の同時期と比較して、ほぼ同様の水準で推移しています。
- ③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、前月に比べ報告数が0.68倍とかなり低い水準で推移しています。前年同期に比べると、報告数で0.89倍とやや低い水準で推移しています。全国的には、過去5年間の同時期と比較して、ほぼ同様の水準で推移しています。

(2)全数(1～5類)把握疾病情報(全国)

ア. 1類、2類及び3類疾病

結核1,433件(12月1,616件)、細菌性赤痢15件(12月35件)、腸管出血性大腸菌感染症103件(12月137件)、腸チフス2件(12月1件)、パラチフス1件(12月3件)の報告がありました。他の疾病の報告はありませんでした。

イ. 4類・5類(上位6疾病)

順位	疾患名	件数	前月件数
1	百日咳	695	888
2	梅毒	473	457
3	侵襲性肺炎球菌感染症	322	365
4	急性脳炎	140	140
5	レジオネラ症	131	121
6	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	125	211

ウ. 栃木県では次の報告がありました。(計64件)

結核27件、オウム病1件、つつが虫病1件、アメーバ赤痢1件、ウイルス性肝炎1件、急性脳炎4件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1件、後天性免疫不全症候群1件、侵襲性肺炎球菌感染症4件、梅毒7件、播種性クリプトコックス症1件、破傷風1件、百日咳14件

※本解析評価は、速報性を重視しておりますので、今後の調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがあります。

2 令和元(2019)年における栃木県の感染症の動向(5 類定点把握対象疾病分)

(1)週報疾病について

※令和 2(2020)年 1 月 27 日現在の暫定集計値です。

- ① インフルエンザは、18-19 シーズンにおいては、第 51 週 (12/17~12/23) に定点当たり 1.0 を超え流行入りしました。その後、報告数が大幅に増加し、第 4 週 (1/21~1/27) にピーク (定点当たり報告数 67.00) が確認されました。19-20 シーズンは、第 46 週 (11/11~11/17) に流行の目安である定点当たり報告数が 1.00 を超え、前シーズンと比較して約 1 か月早く流行入りしました。報告数は前年の 1.23 倍とやや増加しました。
- ② RS ウイルス感染症は、第 38 週 (9/16~9/22) をピーク (定点当たり報告数 3.38) として報告数が増加しました。年間報告数は前年の 1.24 倍とやや増加しました。
- ③ 咽頭結膜熱は、第 23 週 (6/3~6/9) をピーク (定点当たり報告数 0.75) として報告数が増加しました。年間報告数は前年の 0.94 倍とほぼ同様の水準でした。
- ④ A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、年間を通して発生が見られ、第 11 週 (3/11~3/17) をピーク (定点当たり報告数 3.23) として報告数が増加しました。年間報告数は前年の 0.93 倍とほぼ同様の水準でした。
- ⑤ 感染性胃腸炎は、年間を通して発生が見られ、第 52 週 (12/23~12/29) をピーク (定点当たり報告数 6.77) として報告数が増加しました。年間報告数は前年の 0.96 倍とほぼ同様の水準でした。
- ⑥ 水痘は、年間を通して発生が見られました。年間報告数は前年の 1.01 倍とほぼ同様の水準でした。
- ⑦ 手足口病は、第 27 週 (7/1~7/7) に定点当たり報告数が 5.83 となり警報基準を超え、第 30 週 (7/22~7/28) をピーク (定点当たり報告数 21.94) として報告数が増加しました。年間報告数は前年の 6.75 倍と大幅に増加しました。
- ⑧ 伝染性紅斑は、年間を通して発生が見られ、第 22 週 (5/27~6/2) をピーク (定点当たり報告数 1.02) として報告数が増加しました。年間報告数は前年の 1.24 倍とやや増加しました。
- ⑨ 突発性発疹は、年間を通して発生が見られました。年間報告数は前年の 1.01 倍とほぼ同様の水準でした。
- ⑩ ヘルパンギーナは、第 30 週 (7/22~7/28) をピーク (定点当たり報告数 6.31) として報告数が増加しました。年間報告数は前年の 1.18 倍とやや増加しました。
- ⑪ 流行性耳下腺炎は、年間を通して発生が見られました。年間報告数は前年の 1.16 倍とやや増加しました。
- ⑫ 急性出血性結膜炎は、報告数は 2 件でした。前年の報告数は 3 件でした。
- ⑬ 流行性角結膜炎は、年間を通して発生が見られました。年間報告数は前年の 0.67 倍とかなり減少しました。
- ⑭ 細菌性髄膜炎は、報告数は 4 件でした。前年の報告数は 6 件でした。
- ⑮ 無菌性髄膜炎は、報告数は 6 件でした。前年の報告数は 8 件でした。
- ⑯ マイコプラズマ肺炎は、年間を通して発生が見られました。年間報告数は前年の 1.02 倍とほぼ同様の水準でした。
- ⑰ クラミジア肺炎(オウム病を除く)は、報告数は 0 件でした。前年の報告数は 3 件でした。
- ⑱ 感染性胃腸炎(ロタウイルス)は、報告数は 49 件でした。前年の報告数は 24 件でした。
- ⑲ インフルエンザ(入院)は、第 3 週 (1/14~1/20) をピーク (定点あたり報告数 8.86) として報告数が増加しました。年間報告数は前年の 1.29 倍とかなり増加しました。

(2)月報疾病について

※令和2(2020)年1月31日現在の暫定集計値です。

- ① 性器クラミジア感染症は、報告数は441件(男性262件、女性179件)でした。前年と比較して男性は1.02倍とほぼ同様の水準、女性は1.23倍とやや増加しました。
- ② 性器ヘルペスウイルス感染症は、報告数は112件(男性36件、女性76件)でした。前年と比較して、男性は1.20倍とやや増加、女性は1.62倍と大幅に増加しました。
- ③ 尖圭コンジローマは、報告数は119件(男性84件、女性35件)でした。前年と比較して、男性は0.84倍とやや減少、女性は2.50倍と大幅に増加しました。
- ④ 淋菌感染症は、報告数は170件(男性143件、女性27件)でした。前年と比較して、男性は0.87倍とやや減少、女性は1.17倍とやや増加しました。
- ⑤ メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症は、報告数は259件でした。前年と比較して、1.10倍とやや増加しました。
- ⑥ ペニシリン耐性肺炎球菌感染症は、報告はありませんでした。前年も0件でした。
- ⑦ 薬剤耐性緑膿菌感染症は、報告はありませんでした。前年も0件でした。

3 令和元(2019)年における栃木県の感染症の動向(全数把握対象疾病分)

※令和2(2020)年1月7日現在の暫定集計値です。

(1)1~3類疾病について

- ① 結核は、全国21,157件のうち、269件(前年250件)の報告がありました。
- ② 細菌性赤痢は、全国140件のうち、2件(前年0件)の報告がありました。
- ③ 腸管出血性大腸菌感染症は、全国3,739件のうち、64件(前年46件)の報告がありました。その他の疾病の報告はありませんでした。

(2)4類及び5類疾病について

- ① E型肝炎は、全国490件のうち、3件(前年4件)の報告がありました。
 - ② A型肝炎は、全国425件のうち、4件(前年24件)の報告がありました。
 - ③ オウム病は、全国13件のうち、1件(前年0件)の報告がありました。
 - ④ つつが虫病は、全国398件のうち、1件(前年2件)の報告がありました。
 - ⑤ デング熱は、全国461件のうち、1件(前年0件)の報告がありました。
 - ⑥ 日本紅斑熱は、全国318件のうち、1件(前年0件)の報告がありました。
 - ⑦ マラリアは、全国57件のうち、1件(前年0件)の報告がありました。
 - ⑧ レジオネラ症は、全国2,314件のうち、53件(前年50件)の報告がありました。
 - ⑨ アメーバ赤痢は全国844件のうち、12件(前年8件)の報告がありました。
 - ⑩ ウイルス性肝炎は、全国327件のうち、9件(前年3件)の報告がありました。
 - ⑪ カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症は、全国2,311件のうち、32件(前年26件)の報告がありました。
 - ⑫ 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)は、全国78件のうち、6件(前年2件)の報告がありました。
 - ⑬ 急性脳炎は、全国952件のうち、22件(前年9件)の報告がありました。
 - ⑭ クロイツフェルト・ヤコブ病は、全国191件のうち、1件(前年2件)の報告がありました。
 - ⑮ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、全国923件のうち、11件(前年12件)の報告がありました。
 - ⑯ 後天性免疫不全症候群は、全国1,225件のうち、15件(前年15件)の報告がありました。
 - ⑰ 侵襲性インフルエンザ菌感染症は、全国539件のうち、2件(前年5件)の報告がありました。
 - ⑱ 侵襲性髄膜炎菌感染症は、全国48件のうち、1件(前年0件)の報告がありました。
 - ⑲ 侵襲性肺炎球菌感染症は、全国3,321件のうち、40件(前年35件)の報告がありました。
 - ⑳ 水痘(入院例)は、全国489件のうち、3件(前年4件)の報告がありました。
 - ㉑ 梅毒は、全国6,577件のうち、61件(前年49件)の報告がありました。
 - ㉒ 播種性クリプトコックス症は、全国155件のうち、5件(前年5件)の報告がありました。
 - ㉓ 破傷風は、全国125件のうち、3件(前年5件)の報告がありました。
 - ㉔ 百日咳は、全国16,785件のうち、126件(前年79件)の報告がありました。
 - ㉕ 風しんは、全国2,306件のうち、11件(前年9件)の報告がありました。
 - ㉖ 麻しんは、全国744件のうち、3件(前年0件)の報告がありました。
- その他の疾病の報告はありませんでした。

4 疾病の予防解説

冬季に多く発生する感染症には、感染性胃腸炎、インフルエンザなどがあり、いずれも感染症法に基づく5類感染症定点把握疾患です。これらの感染症は、手洗いなどによる予防が有効です。日頃から、バランスの良い食事や十分な休養を心がけ、症状があるときは、早めに医療機関を受診しましょう。

疾病名	原因と潜伏期間	症状や特徴	予防対策
感染性胃腸炎	ノロウイルス、ロタウイルスなど多くのウイルスや、細菌、寄生虫など 1~2日間	主な症状として、激しい吐き気やおう吐、腹痛、下痢、発熱などが現れます。一般に2~3日で軽快しますが、乳幼児や高齢者などでは重症化し、脱水症状などを起こす場合があります。治療は、ウイルス性の場合には水分補給などの対症療法が中心となります。また、下痢等の症状消失後もウイルスの排出が1週間程度続くと言われていています。細菌や寄生虫による場合は、病原体に対する特異的な治療が必要です。	普段から手洗いを徹底しましょう。ノロウイルスは、食品の中心温度85℃~90℃で90秒以上加熱をすることにより感染力がなくなります。おう吐物などの処理は、使い捨てのマスク・手袋等を着用し、しっかりとふき取り、ビニール袋に密封して捨てましょう。おう吐物などがあった場所を次亜塩素酸ナトリウムで消毒しましょう。
インフルエンザ	インフルエンザウイルス 1~3日間	38℃以上の発熱と、頭痛、関節痛、筋肉痛など全身の症状が突然現れます。併せて、のどの痛み、鼻水、咳など一般的な風邪と同じような症状も見られます。感染経路は、咳などで飛び散ったウイルスを吸い込んで感染する（飛沫感染）ほか、ウイルスが付着したドアノブなどに触れて感染する（接触感染）場合があります。例年1月~3月頃にかけて患者数が増加する傾向が見られます。	石けんによる手洗いや、手指消毒が重要です。室内では、加湿器などで適度な湿度（50~60%）を保つことも効果があります。流行時期は人ごみを避け、外出時はマスクを着用しましょう。咳などの症状のある方はマスクを着用しましょう。症状がある場合、早めに医療機関を受診しましょう。解熱後もウイルスを排出し他の人に感染させる可能性があるため、注意しましょう。インフルエンザワクチンは、重症化防止に有効とされています。

(参考) 国立感染症研究所 ホームページ <http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases.html>
厚生労働省 ホームページ <https://www.mhlw.go.jp/>

※予防解説は一般的なことを記載していますので、不明な点は主治医によく相談するようにしましょう。

5 その他の参考事項

国立感染症研究所の感染症発生動向警報システムにより、1月に県内で発生した警報および注意報は次のとおりです。

	第1週 (12/30~1/5)	第2週 (1/6~1/12)	第3週 (1/13~1/19)	第4週 (1/20~1/26)	第5週 (1/27~2/2)
インフルエンザ	【警報】 県北 【注意報】 県南	【警報】 県北 【注意報】 県全体 宇都宮市 県西 県東 県南 安足	【警報】 県北 【注意報】 県全体 宇都宮市 県東 県南 安足	【警報】 県北 【注意報】 県全体 宇都宮市 県西 県東 県南 安足	【警報】 県北 【注意報】 県全体 宇都宮市 県南
水痘		【注意報】 県西 県東			

国立感染症研究所の感染症発生動向警報システムは、過去の週ごと・保健所ごとの届出数に基づき、届出数が特に多いとき（およそ上位1%以内）に警報が発生されるよう、各疾病ごとに定点当たりの基準値が定められたものです。